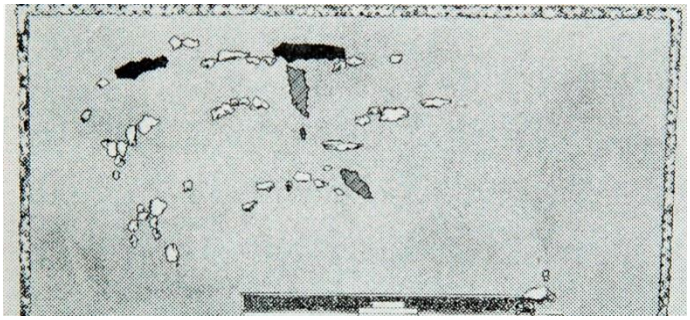
40 Entsu-ji Temple　Edo Period　Kyoto City Sakyoku Iwakura　Tel：075－781－1875

江戸時代の1639年に後水尾天皇の離宮として造営された。林のような柱の奥には広い苔の庭がある。生垣の外には竹やぶが続き、その向こうには霊峰比叡山が聳えている。当庭は日本庭園が一種の自然の模倣から始まっていることを考えれば、借景庭園について考えてみることに意義がある。

石組は三段に組まれていて手前は地中に埋め込まれているが、後ろの段と左側の石組は石を立たせている。また生垣が、もし人為的な直線では無く、自然のままであれば、この庭の魅力は喪失するであろう。この庭は「庭園とは単なる自然の写し」で無いことを証明している。さらに、拾遺都名所絵図によると、ここには盤陀石なる名石があったことを考慮すれば、単に借景庭園と片付けられない立体造形の庭でもある。本来の龍安寺式の庭園を復元するために、以下のように修復して欲しい。



①苔地を白砂敷きにする。
②庭園背後の雑木林を剪定。
③生垣背後の紅葉の枝を庭園内に入り混ませない。
④盤陀石をモノに戻し、名勝に再指定する。
⑤最も重要なことであるが石組み間のツツジの撤去。
左記平面図の出典：大山平四郎著『龍安寺石庭』215Ｐ
講談社

石組は三列の石組みであるが、三波の波を象徴。潮音堂の存在は、
永遠に繰り返す、寄せては返す波の音を象徴した庭の証とおもう。

手前の石は伏石中心であるが、左側と右奥の石は立石が中心の多くの石組である。

故あって、今は玄関にある盤陀石は凹凸の多い名石だ

『拾遺都名所絵図』には盤陀石が後列に描かれている（右端）

譜叡山が良く見える位置から撮影。しかし石組が添え物のようになってしまう。

石組みを中心に左によって撮ると、新鮮な感覚に襲われる。生垣背後の雑木林を剪定すれば、比叡山も見えてくる。

本堂の中心から撮ると、三波の造形が押し寄せて来るかんじになり、比叡山も十分に鑑賞できる。本来の借景庭園復活。